

～エシカル消費で「**エ**いきょうを **シ**っかりと **カ**んがえ**ル**!」(教科書 p.229)

◆**単元名**:終章 私たちが未来の社会を築く | 節 持続可能な未来の社会へ

①持続可能な未来と私たち ▷持続可能な未来を築いていくために (教科書 p.228-229)

◆**本時の目標**:学んできた SDGs を視点に、さまざまな課題と自分なりに向き合いながら、課題解決のための答えを探していくことの大切さに気づく。/これまでの学習の集大成として、持続可能な未来に向けた作品・私の提案「自分を変える、社会を変える」を作成する準備を行う。

□**指導にあたって**:

ESD(持続可能な開発のための教育)では、「自己変容と社会変容に向けた学び」が重視されている。教育自体が目的となるのではなく、グローバルな諸課題に取り組む学びを通じて、自らの意識と行動に変容を起こすことが、そのねらいにある。このような教育を、私の提案「自分を変える、社会を変える」を作成することで具現化していきたい。エシカル消費の活動は、自己変容と社会変容のわかりやすい具体例として生徒に紹介できる。私の提案「自分を変える、社会を変える」をより身近なものとして考えるきっかけとされたい。

【エシカル消費ってどういうこと?】 【私たちにできることってあるの?】

一般社団法人エシカル協会代表理事・^{すえよし りか}末吉 里花さんに聞いてみました!



↑ 末吉 里花さん

Q:「エシカル」とは、何ですか?

A:「エシカル」とは、直訳すると「倫理的な」という意味で、法律の縛りはないけれども多くの人が正しいと思うこと、または社会的規範を意味します。エシカル消費を実践することで、**持続可能な開発目標(SDGs)が掲げるいくつかのゴールの達成にも有効**です。

Q:「エシカル消費」とは、どういう消費でしょうか?

A:いま私たちが着ている洋服は、どこで、誰によって、どのように作られたのでしょうか。生産工程について、製品を手にしながら想像してみても、その裏側にある背景まで知ることは難しいのではないかと思います。買い手である私たちと、製品が作られる背景の間には大きな壁が立ちちはだかり、この壁を乗り越えて生産工程を知ろうとすることは容易ではありません。では、もしも壁の向こう側で、人や地球環境を犠牲にするような問題が起きていたら、どう思われるでしょうか。身近なものを通じて、子どもたちが製品の背景を想像することは、**さまざまな問題を自分ごととして考えるきっかけ**になります。「エシカル」な消費とは、人や環境などに関する問題を引き起こしていないような製品を購入することであって、いわば「**顔の見える消費**」とも言えます。

Q:私たちにできることは、何かありますか?

A:私たちは、毎日なんらかの消費のためにお金を使っています。企業にとって消費者の存在は無視できず、私たち消費者が何を求めるかによって、企業の生産のあり方も違ってきます。**買い物には、投票と同じような役割もあるのです**。そう考えたとき、私たち消費者が持つ力は絶大であり、同時に責任もあります。「**誰が、どこで、どうやって、どのように作った製品か**」を意識しながら、**買い物をすることが重要**です。フェアトレードやオーガニックコットン、適切に管理された森林や環境に配慮した漁業の認証など、ラベル付きの製品は参考になるでしょう。

Q:最後にひと言お願いします!

A:「エシカル」とは、「**エ**いきょうを**シ**っかりと**カ**んがえ**ル**」ということです。すでに手にしている製品を修理しながら大切に長く使い続けることや、製品の未来、つまり廃棄までを考えて消費をすることは、エシカル消費にとって大事な考え方です。まずは**身のまわりから、自分に何ができるかを考え実践し始めることが、とても大切です**。Be the change!